

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 14 日

所属	商経学部	職名	専任講師	氏名	大沼 沙樹
研究課題	チームをこえた認知の分業体系に及ぼす影響要因の解明				
研究キーワード	認知の分業体系、チーム、知識探求	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

チーム外の知識の探求を促す認知の分業体系の重要性や役割を明確にするために、関連研究のレビューを中心に進めた。本年度は特に、マルチ・チーム研究のレビューを行った。どのような関係性であれば、チーム外の知識の探求を促す認知の分業体系を促進できるのかを理解するために、複数のチームでの協働を扱うマルチ・チーム研究を検討する。まず、マルチ・チームでの協働を促す要因には、(1)マルチ・チームの特性、(2)つながり、(3)発展性の3つがあり、相互依存性やチームの階層性、パワーの分散度合いなど構造の側面が主に研究されてきた。一方で、本研究でも焦点を当てているチーム間のコミュニケーションやメンバーシップ・関係性の維持は今後研究が必要とされる分野で、既存研究があまりないことがわかった (e.g., Shuffler et al., 2015)。

さらに、チーム間の関係性そのものがどのように想定されているかをレビューした。Luciano et al. (2020)では、TMT と取締役会のチーム間の関係性に焦点を当てた。個別に行う業務の程度と、相互依存的な業務の程度を2軸に取り、関係性を4つに分類した。その結果、個別に行う業務も多いうえに相互依存性が高い業務を担う場合には、最も協働しなくてはならない状況であるとした。この4分類はTMT と取締役会における関係性として説明されるが、他の下位層のチームでも活用可能な分類であると考えられる。ただし、戦略立案や重要な意思決定を行い、外部環境の変化に機敏に対応しなければならないTMT や取締役会と同じレベルで同様の関係性が想定されるとは限らないために、今後追加的なレビューが必要である。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

「ICT を介した情報共有で生じる認知的負荷に及ぼすコーディネーションの効果と職務成果への影響」大沼沙樹・村瀬俊朗、共著、日本経営学会誌、56、16-31、2024

【著書・論文 (査読なし)】

該当事項なし

【学会発表等】

該当事項なし

3. 主な経費

文献レビューに使用するPC や書籍の購入、データ保存で使用するオンラインストレージ更新費用などに使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

若手研究：令和 5～7 年度、研究代表者「チーム間の知識探求を促す認知の分業体系：チーム成果に与える影響と形成要因の解明」23K12538

(本文は2ページ以内にまとめること)